



生野鉱山 近代化遺産 Ikuno Mine club

特別公開 迎賓館 生野鉱山倶楽部

2026 **9.27 sun** 10:00~15:00

(同時開催 生野銀谷祭り)

映像作家 藤原次郎氏 (朝来市出身) による

記録映像 上映・講演

『生野スケッチ』

『継 Heritage』ほか

第1部 11:00~ 第2部 13:00~



主催・問い合わせ 口銀谷の町並みをつくる会

〒679-3301 朝来市生野町口銀谷 640

TEL&FAX 079-679-4448 生野まちづくり工房井筒屋内

協力 NPO 法人全国町並み保存連盟 NPO 法人いくのライブミュージアム ほか

鉾山町の迎賓館 生野鉾山倶楽部



■山師 松本林右衛門邸として

生野鉾山倶楽部は、江戸末期に活躍した生野銀山の大山師である松本林右衛門の邸宅として、明治 19 (1886) 年に建築されました。松本林右衛門は屋号を光屋といい、生野銀山の光山という鉾山を所有していました。

数寄屋造りの典型的な近代和風住宅であり、座敷の床の間、飾り棚、釘隠しや欄間装飾などに洗練された意匠が見られるとともに、来客用の便所及び浴室なども特徴的な設えとなっています。

さらに、屋根には生野では珍しいうだつや袖壁などが独創的に設けられており、懸魚や黒漆喰の外壁が見られるなど格式の高さが伺えます。都市部に比肩できるこうした住宅が建てられており、鉾山まち生野の都市的な性格が理解できます。



■有栖川宮熾仁親王がご宿泊

明治 21 (1888) 年には、有栖川宮熾仁親王が生野鉾山に視察で訪れた際の宿泊所として利用されました。そのときに、親王が新築の離れを「静和亭」と命名し、「霞堂」と署名された書額が生野に残っています。(生野鉾山倶楽部蔵)

■初代法務大臣 山田顕義

また、日本大学と国学院大学の学祖であり初代法務大臣も務めた山田顕義伯爵が、明治 25 (1892) 年に視察した生野鉾山の太盛 2 番坑で突然倒れ逝去された際に、松本林右衛門邸で一時的に安置されました。(このとき、生野鉾山で最初に山田顕義を診察したのは、現在も生野町にある佐藤医院の佐藤英太郎医師でした。)



有栖川宮熾仁親王



山田 顕義



佐藤 英太郎



■迎賓館 生野鉾山倶楽部

戦後、生野鉾山の医師だった大類薫氏の医院兼住宅として使用された後、昭和 31 (1956) 年から(株)三菱金属生野鉾業所の保養施設・迎賓館「生野鉾山倶楽部」として利用されました。

鉾山所長などの幹部が転勤する際には、鉾山の従業員や町民などが周辺に長蛇の列を作って、ここから転出する幹部の家族を見送る光景が見られました。昭和 48 年に鉾山が閉山した後も、鉾山関連企業などによって保養施設・迎賓館として引き続き利用されてきました。

現在も「生野クラブ」の愛称で親しまれており、兵庫県で唯一、国重要文化的景観に選定された「生野鉾山及び鉾山町の文化的景観」において、景観重要建造物として位置づけられています。